

# 伊勢物語

— 勢和小学校通信 —

NO. 11

2022. 10. 19

## 自分は何ぞきた?

— もめごとあるある —

ある学級での「もめごと」に出くわしました。

「なんで自分だけ」「勝手に決めるな」「そんなん知らん」「ほかにもあった」など、お互いの意見がくいちがもとの「もめごとあるある」です。

この話を聞いて感じたのは、「なんか相手の悪いところばかり攻め合っている。後ろ向きな気持ちの言葉が多いな。」ということ。クダ、ガツ、ツギ、... 問題を私たちが解決できる?

相手が、まわりの人がどうのこうのより、「自分はどうしたらもめごとを避けることができたのか。」を考えられなかったのかな。前向きな気持ちで。

もちろん「自分は悪くない」と考えているから、そんなことを考えるのは、「なんで?」「くやしい」と思っている自覚がありますが、必ず見てる人は見えています。

おひきも見えています。自分がすべきこと、よい行いをしていれば、きっとあなたのこと

をわかってくれるし、あなたの周りには信頼できる最高の仲間が集まってくるはず。そうすれば、お互いのことを思い合い、くいちがいもなく、だれもが楽しくすごせるようになる。

まずは、自分が「胸を張れる行動」をして、人からとやかく言われない堂々とするようにしていこうと、校長先生は思います。



# 子どもなめん

— 大人も子どももい —

何を言っても聞く気がない相手なら、自分をさらに高いレベルに上げてしまえ。」といふ校長先生の考えに対して、「校長先生は、「大人」やからな。」という反論。

「ハッ、キーン。「子ども」をなめんなよ。」と思いました。では、スピード違反でつかまって「オレだけやない、みんなスピード出しとった」とつかまれる大人がいる。通学路のた水が捨てたかわからないごみを捨ててキレイにしている子どももいる。情けない大人もいれば、すごい子どももいる。年に関係ない。その人の「人間カ」だ。「自分は「子ども」は、理由になるの?」

校長先生も、子どものころから、いろんなことを一通りやってきました。マラソン、ヨット、みんなの前でしゃべりだ...。その中で、いろんな人と出会って、いろんな考えを知り、ゆきやも考えた。いろいろ考えた。うんと考えた。「そなた」となって、今の校長先生になっています。大人になったから自然に今のよりに考える人に変ったわけじゃありません。校長先生のこれまでの経験や努力を「大人やからな。」の一言で片づけられてはなりません。そして、みんなにも「子ども」をいかけにして、変わることをあきらめてはなりません。

